

人文学基礎（人文学と対話）第3回

協働の探究のための  
〈問い Inquiry Question〉を立て、共有する

主担当教員：高橋 綾（人文学林 講師）

副担当教員：火曜 菅原裕輝先生（人文学林）木曜 西村高宏先生（人文学専攻）

TF：火曜 陳凱歡さん（言文） 水曜 村井勇輝さん（外国学）

TA：火曜 チョスンヨンさん（日本学）水曜 春川千潮さん（言語文化学）

木曜 阿部悠太さん（人文学）・泊慎太郎さん（日本学）

# 授業の目的と内容

## 【目的】

協働の探究の出発点となる〈問い〉を立て、グループで共有してみよう

## 【内容】

1. はじめのミニワーク “発声練習” (10分)
2. 今日のワークの説明、模範演技 (30分)
3. 対話型ワーク③  
協働の探究のための〈問い〉を立て、共有する (45分)
4. ふりかえりシートの提出について (5分)

## はじめのミニワーク ”発声練習”

(今後も授業の最初はこれから始まるのでやり方を覚えてください)

- (1) 誰かが簡単・簡潔に答えられる質問（できればその人らしさがわかるものがよい）をします。
- (2) 名前を呼ばれた人は、「私の名前は〇〇です、質問への答えは～～です」と最初の質問への答えを短く、一言で教えてください。  
(この時点で、その日の授業への参加に支障がある場合は申し出てください)
- (3) 自分の番が終わったら、次の人を指名します。この時、自分の番が回ってきていない人は、指名する人がわかりやすいように、手を上げるなどのアピールをしてください。
- (4) 全員が話し終えるまで、これを繰り返します。

今日の質問は、「あなたにとって欠かせない（好きな）食べ物=soul foodはなんですか？」です。この質問に答え先週のジェスチャーをしながら次の人を指名してください。



対話型ワーク③

協働の探究のための〈問い〉

を立て、共有する

# 協働の探究のための〈問い〉を立て、共有する（1）

- ◆ 対話と協働の探究のためには、「質問」や〈問い〉が重要である。探究（考えること）の基本は、質問・問い—答え（問答）である。ともに考えるためには、今自分たちがどの質問・問いについて答えようとしているか、ということを探究する人たちが明確に意識し、共有していることが重要である。
- ◆ 第2回で行なった「質問」は、特定の相手や個々の考えをより深く知るために重要であるが、他人とともに探究を始める場合には、その探究のテーマ・スタートポイントとなる〈問い Inquiry Question〉を立て、それを他人と共有することが重要である。

質問 Question：特定の相手や個々の考えをより理解するためにするもの

問い Inquiry question：参加者全員に対してなされる、探究のテーマや新しい論点の提案

- ◆ 通常の話し合いでは、話し合いのテーマや問題・議題のなかに含まれる〈問い〉を共有せずに話し合いを始めてしまい、話がかみあわないということもよく起こる。今日のワークでは、探究を始める前に、グループのメンバーの〈問い〉を理解し、共有することに挑戦しよう。
- ◆ 自分の研究テーマを離れて（それ以外で）、日常生活や社会で起こることについて、他の人と考えた  
いことを〈問い〉のかたちで表してください

# 対話と協働の探求のための〈問い〉の特徴や条件（1）

- ◆ 解決策や答え、事実についての情報を得るためのものではなく、いろいろな人の「考え・意見 opinion」を聴くことのできる問いであるか？

※ 〈問い〉を立てるときも、哲学者の道具箱を使ってみよう

- ・なぜ～なのか？ What a reason for~?
- ・～とはどういう意味か？ What do you mean by~?
- ・～なのはどんな場合か？ Example
- ・xxは△△だと推論して（考えて）よいか？ Can I infer~?
- ・そもそも～か？～を当たりまえと考えても大丈夫か？ Is it safe to assume~?

※ 問いに対する答えが「人それぞれ」となるようなものや、得たい答えの方向性があらかじめ決まっているものは、それ以上探究をしにくいので、修正したほうがよい

- ◆ 検討すべき要素の多い、複雑すぎる問いではないか？

- ◆ 問いが大きすぎ、漠然としていないか？

→問いはなるべくシンプルなものの方がよい。しかし、シンプルで大きすぎる問いは、答える方向がバラバラになるか答えるのが難しいため、適度な問いのチャンクダウン（細分化、特定化）を行なったほうがよい

Ex. 幸せとは何か？ → お金持ちであることは幸せであることと関係するか？

# 対話と協働の探求のための〈問い〉の特徴や条件（2）

- ◆自分だけでなく、他人も考えたいと思う問いであるか？
- ◆対話の参加者全員に関係し、自分ごととして、自分の経験から考えることのできる問いか？（専門的な知識がなければ／特定の経験をしていないと答えられないものはなるべく避ける）
- ◆問いの中に、他の人（他の参加者）が共有できない前提が混じってはいないか？

Ex.なぜ日本では結婚しない人が増えているのか？ → ある社会で結婚しない人が増えることをどう思うか？  
→あなたはある年齢になったら結婚することを当たり前だと思うか？

→前提を含まない考えは存在しないため、まったく無前提に問いを立てることは難しい。

ただしその問題意識を共有できない参加者がいる問いから協働の探究を始めないほうがよい

→初めは共有できそうにない問いでも、相手がその問いを立てた根本にある問題意識（考えたいこと）を理解して、問いを修正、改善すれば全員が共有できる問いになることが多い

問いを共有し、作り上げていくところから、協働の探究はすでに始まっている。また、よい探究のなかでは、最初の問いがもう一度疑問にふされたり、修正されたり、新しい問いが派生するものなので、最初から完璧な問いをつくることにそこまでこだわる必要はない

# 協働の探究のための〈問い〉を立て、共有する（2）

【ワークの進め方】ワークの目的は三人で協力して、対話の〈問い〉を立てる練習をすることです！〈問い〉について答える、話し合うことではありません！

- (1) 3人のなかで進行役（グループワークのステップ・やることを明示する役）とタイムキーパーを決める
- (2) 3人全員が自分の考えてきた〈問い〉を一つ、チャットに書く
- (3) チャットで上に書かれている〈問い〉から順番に、以下の話し合いを行う。※1つの〈問い〉あたり15分：  
（目安）一番目の問い：9:30-9:45、二番目の問い：9:45-10:00、三番目の問い：10:00-10:15

- A. 〈問い〉を立てた人が、その〈問い〉を考えたいと思った理由、背景を簡単に話す。
- B. 他の2人は、その人が〈問い〉を通じて考えたいことを理解・確認するために質問をする  
その人が考えたいことが理解できたら、2人は対話と探究のための問いの条件・チェックポイントを踏まえて、その問いを3人が共有できる、よりよい問いになるように提案をしてもよい

**【注意点🙋】** 〈問い〉にいきなり答えて意見を言わないでください！

- C. 〈問い〉の修正や理解、共有ができたなら、〈問い〉を立てた人がチャットに〈問い〉の修正案を書き、確定させる。 ※時間内に問いの修正まで終わった場合のみ、内容について話し合うことができる

(4) 最初の〈問い〉が確定したら、次の〈問い〉についての検討に移る

※自分の〈問い〉については、最初の〈問い〉と他の人と一緒に修正した〈問い〉をメモしておくこと。あとで、ふりかえりシートで報告してもらいます。

# 【参考】対話と探究における「進行役」の役割

対話と探究における「進行役」の役割は、通常の話し合いにおける「司会」とはやや異なります。「進行役」になった人は以下の点に気をつけて進行を試みてください。

**【基本の考え方】対話における進行役は強いリーダーシップ（発言者を指名する、それぞれの発言を引き取ってコメントする、話し合いをまとめる）を発揮する必要はありません。今何を話したらいいのかを参加者に明示すること、参加者全員が偏りなく参加できる環境を作るのが進行役の役割です。**

- (1) 進行役はグループの探究がどのステップにいるかを確認、明示してください。 時間の管理が必要な場合は、それにも気をつけてください、タイムキーパーがいる場合は、時間管理はタイムキーパーがします。
- (2) 発言の順番は、決まっている順番で回すか、進行役が最初の1人を決めあとは発言した人が次の発言者を指名します。
- (3) ある論点についての意見を一通り全員が言い終わったら、まとめることはしないで、他の人に対して質問はあるか、全員に対して投げかける質問や〈問い〉があるかを全員に聞いてください。  
複数質問したい人が出てきた場合には進行役が指名してもよい。複数〈問い〉がでてきた場合は、つぎにどの〈問い〉について話し合うか全員に聞いて決める。
- (4) 対話の進行役は、話し合いを早く進めることよりも、全員がよく考えられるように、ところどころでゆっくり時間をとることを心がけてください。
- (5) 1人の話が長い場合や、特定の人たちだけで話が盛り上がっている場合は、話を理解できていない人や他に言いたいことがある人がいないか確認しましょう。
- (6) 進行役自身も対話と探究の参加者です、進行に徹するのではなく自分の意見も話してください。

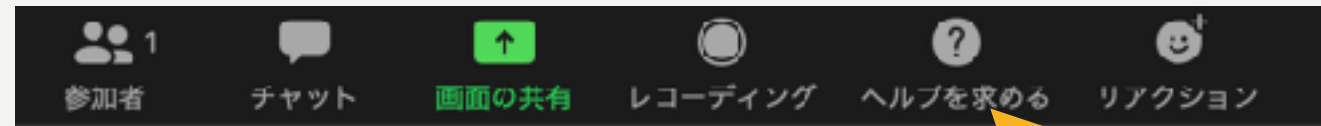
# Zoomの使い方について

ブレイクアウトルームを使う場合の注意点

授業担当者のほうで、2人1組を作りブレイクアウトルームを割り当てますので、そのルームに参加してください。ブレイクアウトルームに分かれた後の注意点は・・・

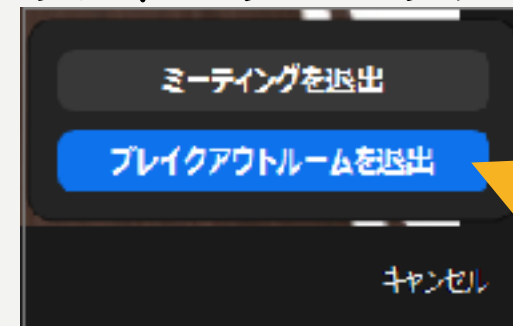
(1) 何かあったらヘルプボタン！


→ブレイクアウトルームからチャットは届きませんので、対話相手のネット接続が悪くルームを退出した、など、ブレイクアウトルーム内で何かありましたら、画面下にある「ヘルプを求め」を押してください。



(2) 「ミーティング」から退出しないでね

→グループワークの時間が終わると、ブレイクアウトルームを閉じてメインルームに戻ってください。ブレイクアウトルームから出るときには、「ミーティングから退出」と「ブレイクアウトルームから退出」の2つの選択を求められますが、「ブレイクアウトルームから退出」を選んでください。





# ふりかえりシート of 記入・提出 について

# ふりかえりシートの記入・提出について

◆今回も、今日の対話を振り返って、ふりかえりシートを記入し、提出してください。

◆今回は、(3)の項目に、グループワークで、自分が最初に出した〈問い〉と、グループメンバーのサポートを受けて修正された〈問い〉とを両方書き、どのような修正があったかを簡単に書いてください

## 【記入例】

自分が立ててきた問い：幸せであるとはどういうことか？

修正後の問い：お金持ちであることと幸せであることは関係するか？

修正した点とその理由：

最初の問いはやや大きすぎるという指摘を受けた。他の人と話してみても、自分が経済的に豊かであることと幸福との関係を特に考えたいと思っているということがわかったので、問いをすこし狭めて修正した。

◆第4回はテーマ「人文学は役に立つのか？—現代における人文学の課題」についての背景知識、状況を解説した事前学習動画を視聴し、このテーマに関する自分の〈問い〉※第3回の学習参照 とそれについての(短い)答え、意見を考えてきてください

人文学部 (人文学と対話) ふりかえりシート 第 回 ( 月 日 ) 分

クラス：春学期 曜日 名前 (授業でのニックネーム)

[1] (必須) 今日の授業 (視聴点) でのあなたの観感・状態を振り返って正直に記入してください

		1 とても 満足 している	2 満足 している	3 どちら か 満足 している	4 満足 していない	5 とても 満足 していない
ポジティブ アサーティブ ネス <small>(例) 目標達成 感</small>	1自分とは異なる感じ方を考え、いざなり批評や否定せず、聴き、理解しようとする 2自分の回りことや相手にとってネガティブなこと、相手と自分の意見が異なる場合でも、それらを尊重かつ適切な言い方で伝える 3様々な属性、能力や特性の人が働けやすい環境をつくるために配慮する	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
異質・アクティブ リスニング・ 共感 <small>(例) 目標達成 感、振り返り 感</small>	4自分とは異なる感じ方、考え方を自分に対して、相手のミスや自分と他人の違いを知るためにさまざまな角度から質問をする 5相手の感じ方、考え方について、相手の立場に立って、共感的に理解する	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
セルフアワー アセス <small>(例) 目標達成 感、振り返り 感</small>	6他者の対話のなかで、自分自身、考えていることや無意識に当たり前の思っていたこと(前提)があらためて気づく	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
論議の質 <small>(例) 目標達成 感、振り返り 感</small>	7具体的な事例や経験の例について、自分で考えを切り口を見つけ、議論のための「問い」を立てる 8他者の考えたいことや「問い」を議論し、それに対する意見を言う 9議論の質が高まるように、建設的に新しい問いを出し、対話の進行についての提案をする	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
コミュニティ 意識 <small>(例) 目標達成 感、振り返り 感</small>	10対話のなかで、グループのメンバーに対して、違いがあっても協働して探求することのできる仲間(コミュニティ)だと感じる	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

[2] (必須) 今日の対話 (グループワーク) のなかで、自分の対話の態度、能力について気づいたこと。特に (1) の項目の自己評価がよくも悪くも変わった場合には、そう考えた理由を書く

[3] (授業内で指示があった場合必須) 授業の内容のふりかえり、他の人が話したこと、また、グループで話してみても、あなたが気づいたり、考えたこと

[4] (任意) 教員からの回答や対話が必要なこと